

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 18 年 4 月 20 日 (2006.4.20)

【公表番号】特表 2002-509972 (P2002-509972A)

【公表日】平成 14 年 4 月 2 日 (2002.4.2)

【出願番号】特願 2000-541248 (P2000-541248)

【国際特許分類】

C 0 8 L 69/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/49 (2006.01)

C 0 8 L 27/18 (2006.01)

C 0 8 L 55/02 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 69/00

C 0 8 K 5/49

C 0 8 L 27/18

C 0 8 L 55/02

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 2 月 21 日 (2006.2.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (a) 芳香族カーボネート樹脂、

(b) 連続硬質熱可塑性樹脂相に不連続ゴム相が分散してなるゴム変性グラフト共重合体であって、硬質熱可塑性樹脂相の少なくとも一部がゴム相に化学的にグラフトしていて、該共重合体のゴム相が (C₃₀ - C₁₀₈) ポリ酸界面活性剤の存在下での水性乳化重合で合成されたものであるゴム変性グラフト共重合体、及び

(c) 難燃化量の有機リン系難燃剤
を含んでなる熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 2】 当該組成物が、当該熱可塑性樹脂組成物 100 重量部を基準にして、芳香族ポリカーボネート樹脂 40 ~ 95 重量部、ゴム変性グラフト共重合体 4 ~ 59 重量部及び有機リン系難燃剤 1 ~ 20 重量部からなる、請求項 1 記載の組成物。

【請求項 3】 前記ポリカーボネート樹脂がビスフェノール A とホスゲンから誘導されたものである、請求項 1 記載の組成物。

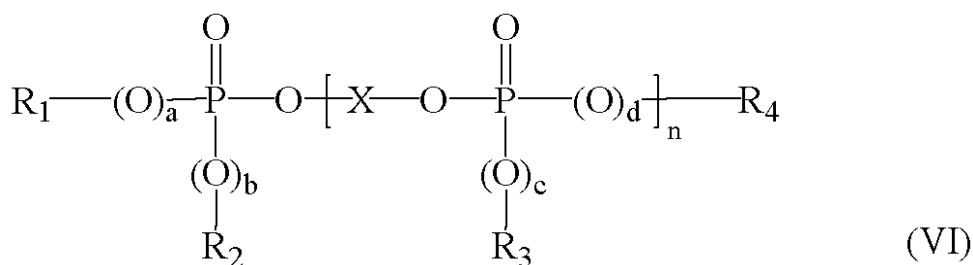
【請求項 4】 前記ゴム相がポリブタジエンポリマー又はポリ(スチレン - ブタジエン)共重合体からなり、前記硬質熱可塑性相がビニル芳香族単量体及びモノエチレン性不飽和ニトリル単量体から選択される 1 種類以上の単量体から誘導される構造単位を含んでなる、請求項 1 記載の組成物。

【請求項 5】 前記硬質相がスチレン、 - メチルスチレン及びアクリロニトリルからなる群から選択される単量体から誘導された共重合体からなる、請求項 4 記載の組成物。

【請求項 6】 前記乳化重合が、15 より大きい膨潤指数を有するゴムを与えるのに有効な量の連鎖移動剤の存在下で行われる、請求項 1 記載の組成物。

【請求項 7】 有機リン系難燃剤が構造式 (VI) の化合物 1 種類以上からなる、請求項 1 記載の組成物。

【化 1】



式中、 R_1 、 R_2 、 R_3 及び R_4 は各々独立にアリールであって該アリールは任意にはハロゲン又はアルキルで置換されていてもよく、 X はアリーレンであって該アリーレンは任意にはハロゲン又はアルキルで置換されていてもよく、 a 、 b 、 c 及び d は各々独立に0又は1であり、 n は0～5の整数である。

【請求項8】 当該組成物にドリップ防止性を与えるのに有効な量のフルオロポリマーをさらに含んでいる、請求項1記載の組成物。

【請求項9】 前記フルオロポリマーがテトラフルオロエチレンポリマーである、請求項8記載の組成物。

【請求項10】 前記フルオロポリマーが、フルオロポリマーの水性分散液存在下での1種類以上のモノエチレン性不飽和単量体の乳化重合で製造された添加剤の形態で組成物に添加される、請求項8記載の組成物。

【請求項11】 前記添加剤が、ポリテトラフルオロエチレン粒子の水性分散液存在下でのスチレンとアクリロニトリルの乳化重合で製造されたものである、請求項10記載の組成物。

【請求項12】 請求項1記載の組成物を成形してなる物品。

【請求項13】 (a) 芳香族カーボネート樹脂、

(b) 連続硬質熱可塑性樹脂相に不連続ゴム相が分散してなるゴム変性グラフト共重合体であって、硬質熱可塑性樹脂相の少なくとも一部がゴム相に化学的にグラフトしていて、 $(\text{C}_{30} - \text{C}_{108})$ ポリ酸界面活性剤の存在下での水性乳化重合で合成されたゴム変性グラフト共重合体、及び

(c) 難燃化量の有機リン系難燃剤

をブレンドして得られる組成物を含んでなる熱可塑性樹脂組成物。